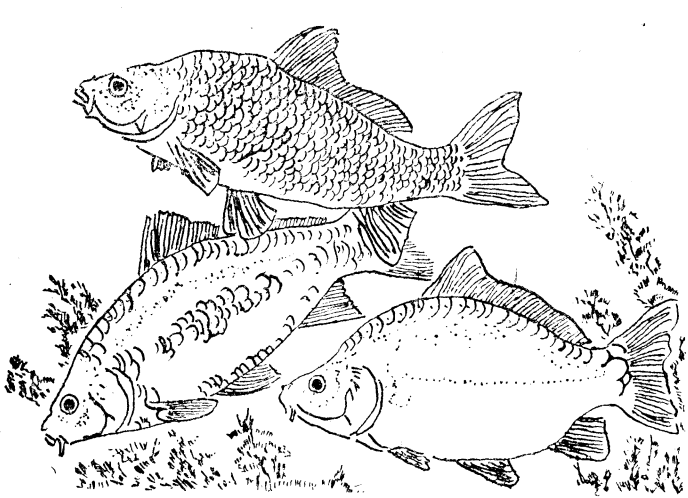


鯉

事業課　佐々木與吉

鯉は暖くて靜かな池や湖を好み、冷たい急流にはあまり棲んでゐません。動作は非常に緩かで悠々と泳いでをり、物音にもあまり驚かず、いざこれから料理されるといふ時でさへ他の魚の樣にじたばた動かない。しかし一度急流に泳ぎ出すと瀧を登つてグン〳〵上流に溯つて行くと云はれてゐますが、本當に鯉は瀧を登るかは疑はしい。併しそれはそうとして、男子と生れたからには鯉の樣にビクともしない度胸を持ち、又世に出たならば鯉が急流に出た時の樣にぐんぐん社會を切廻したいものである。そこで男の子の居る家では五月の端午の節句になると何處へ行つても軒端に高々と鯉幟りを立てゝ祝ふのだろう。

鯉には口の兩側に二本の鬚があり、体の側面にある側線の鱗は三十六枚前後ある。鯉には普通眞鯉と美しい色をした緋鯉とがあり、又体の所々にしか鱗のない變化に富んだドイツ鯉がありますがこれは明治三十七年ドイツから移殖したものです。

鯉は四月から六月にかけて淺い湖や川の岸に集つて

水草に卵を生みつけます。粘着卵ですから附着した卵はなか〳〵落ちません。攝氏二十度位では六・七日で孵化し、小さい時はミヂンコを食べますが成長するに從つて色々な虫や水草の若芽を喰べ、三・四年で親魚になります。

傳說によると鯉は五・六十年位も生きることになつて居りますがこれは信用出來ません。ずつと前に琵琶湖で全長一米、体重三十瓩といふ大きな鯉が捕獲されたことを聞いて居りますがこれでも二十才か三十才位のものでせう。

鯉は今では暖い國なら何處にでも棲んで居る樣です。鯉は魚の中では最も早くから養殖されたもので日本では北海道から九州に至るまで各地で養殖されてゐますが群馬縣、長野縣、滋賀縣、岐阜縣などでは殊に盛んに養はれ、新潟縣古志郡では觀賞魚の錦鯉が盛んに養殖されてゐます。鯉は淡水に棲む魚としては味が良く早く大きくなり、人に馴れ易く飼育し易い魚です。一般に鯉は雌魚よりも雄魚は一年早く壯成し、雄は三年雌は四年で親となり、以後は十二・三年に及ぶまで年々生殖しますが始めて親魚となる時の體長は大體一尺二寸位體重は三百匁內外です。

一尾の孕卵數は體重によつて異るが、普通二十万乃至六十万位です。その中完全に魚巢に附着するものは七・八万乃至二十万粒で、孵化して飼育出來るものは更に減つて一万尾乃至三万尾位になります。

鯉は池で卵を生む。しかし親魚が自分の生んだ卵を食べるし、孵化した鯉は弱いので產卵する時は親魚を水の暖かい特別な產卵池に入れて卵を生ませます。親が卵を生み終ると卵だけを孵化池に移して孵化させます。產卵は丁度八十八夜頃で、北海道では五月下旬六月上旬です。鯉は水草に卵を生みつける性質を持つているので產卵池で卵を生ませる場合も魚巢を入れてやります。金魚藻が一番良いのですが、これがない場合は棕梠皮か柳の根を池面に浮べます。親魚はこれに一面に卵を生みつけます。親魚には十才前後の丈夫で大さいのを使います。

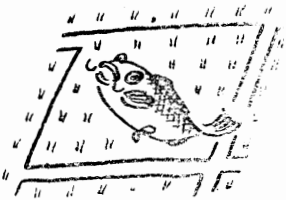
この卵を孵化池に入れて孵化しますが、孵化して二・三日經つと泳ぎ始め、池の緣や底に集ります。孵化してから三・四日經つた時始めてゆで卵の黃味を與へ之れを二・三日續けます。かうして育てゝから稚魚飼育池に移し、初めの二週間は蓄殖させて置いたミヂンコを與へて育て、その後は麥粉、蛹粉、魚粉等を一緒に混ぜてねつて與へます。かうして翌年の四月、つまり生れた翌年の四月には十匁位になりますので二年鯉

飼育池に移し食用鯉として養成します。その年の秋には白双内外に育ち食用に供されます。

食用鯉として育てる養成池は止水池の場合と流水池の場合とがあります。止水池では水が流れてゐませんのであまり澤山放養すると水中の酸素が少くなり鼻上げをして死ぬので、一坪に一尾か二尾の割合で放します。

鯉には餌を與えて飼ふ場合と別に餌を與へないで育てる場合があります。流水池では普通は一坪に百尾乃至多い時には四百尾も入れて養います。餌としては蠶の蛹、イトミミズ、麥粉、米糠を與へて育てます。湖沼とか溜池に放して別に給餌しないで天然のまゝ育てる場合もあります。又稻田を利用して鯉を飼ふことも盛んに行はれてゐます。稻田はあまり深くすると稻が育ちませんので水深は二寸か三寸位ですから大きな鯉を育てることはむづかしいので專ら魚兒飼育をやります。

鯉は昔から庭園の池塘にはよく飼育され餌を與へながら出來るだけ魚を可愛がつて育てますが、この魚のおいしい所は百匁から二百匁の一尺二・三寸のものですが獨乙鯉、色鯉でも肉味に殆んど變りがないので食用に供しても何等差支へありません。



本道の稻田養鯉

企畫課　逸見文彦

本道における稻田養鯉は昭和十八年以來農民の體位向上と、農山村に魚肉蛋白質を供給する目的で實施されてきたが、昨年までに放養された稚魚は約三千萬尾におよび、その効果についても年とともに認識され成果を收めている。

稻田養鯉とは

稻を植え付けた水田に鯉の兒を放して、稻の增收をはかるとともに、鯉を肥らせる方法である。すなわち稻の生育に適した水田は反面、鯉の成長にも適した水面であるから、稻を增收するために努力することは、